

第1学年道徳学習指導案

日 時 平成16年10月6日(水) 4校時
学 級 1年(男子15名 女子11名 計26名)
指導者 教 諭 野 崎 朱 実

I 主題名 「人間の心の弱さの克服」 内容項目3－(3)
資料名 「銀色のシャープペンシル」 出典「自分を見つめる」あかつき

II 主題について

(1) ねらいとする価値について

中学校の指導項目3－(3)は、「人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きることに喜びを見いだすように努める」となっている。

日々生活していく中で人は、悲しいことやつらいことに出会い、絶望しそうになったり、世をはかなんで、生きる自信をなくすこともある。時には誘惑に負け、自分の欲望を満たすため自分本位な考えや行動をとることもある。しかしその一方で、そういう自分の弱さを責め、良心の呵責と戦うことで、弱さを克服し、よりよい生き方をしようとする面も伏せて持っている、そういう自分を意識し、人間として生きることの素晴らしさに気付いた時、強く、気高く生きていくことができるし、生きることの喜びも感じられることができるのである。

指導にあたっては、人間は誰でも様々な弱さを持っており、それを乗り越え、少しでもよりよい生き方を目指し、努力するところに人間としての素晴らしさがある。自分自身の中にある弱さや醜さを認め、それを克服して生きていこうとする心情を持つことが大切であるということに気付かせたいと考える。

(2) ねらいにかかわる生徒の実態について

今年6月に実施した道徳適性検査の結果を見ると、指導項目3－(3)については、A(十分発達)81%、B(おおむね達成)15%、C(発達が不十分)4%と全国水準と同等の結果が出ている。

入学してから半年が経つが、現在も生徒たちは男女ともに仲が良く、明るく元気に生活している。人と話すことが好きな生徒たちで、話し合いや道徳の時間では、各自が自分の考えや体験談を恥ずかしがらずに発表し合える雰囲気がある。今回のねらいに関しては、自分の行動を正当化するために人や物のせいにしたりは学校でもよく見かける光景である。そんな自分の行動(弱さ)を振り返り、その上で資料の主人公の気持ちを追い、共感したり考えたりすることで自分自身を奮い立たせ、ねらいである強く正しく生きる力を信じ、人間としての誇りをもっていくことにつながればと考える。

(3) 資料について

主人公は、掃除の時間に拾った他人のシャープペンシルを勝手に使ったことに単を発し、自分の行動を正当化するために嘘をつき通さざるをえなくなる。そんな主人公の行動は、人間誰もが持っている人間の弱さであり、生徒にも共感できることだと考える。そんな主人公が、友人でありシャープペンシルの本当の持ち主でもある卓也からの電話をきっかけに、自分のとってきた行動を振り返り反省し、自分の中にある弱い、醜い部分と戦いながらそれに打ち勝ち、あえて誇りある生き方を目指そうとする。そういう主人公の姿に焦点を当て、人間としての弱さを克服し、よりよい人生を歩もうとすることの素晴らしさに気付かせたい。

Ⅲ 指導の構想

(1) 授業の概要

導入では、日常の体験を想起させ、人間誰しもが持っている弱さであることに触れておきたい。

展開では、始めにぼく（主人公）の弱さが現れている場面について考え、ぼくと自分を重ね合わせながら共感させていきたい。次に中心発問となるぼくの気持ちの変容の場面について考え、「ずるいぞ。」という声が、自分の心をさらに変化させていったことを押さえたい。最後に自分自身に正直に生きようとするぼくの心の中を読みとらせ、弱い自分から克服できたぼくの気持ちに共感させたい。

終末では、授業を通して学んだことについて発表させ、これからの生き方に意欲を持たせたい。

(2) 研究とのかかわり

① 日常の体験を生かす。

主人公のような弱さは、誰にでもあるようなことだということを感じ取らせるために「自分に責任があるのに「ぼく（私）じゃないのに。」と言ってしまったことはありませんでしたか。」を考えさせる。

② 資料の読み取りの工夫をする。

- ・朝自習を活用し、資料を事前読みさせることで、資料の内容を十分に理解させる。
- ・主人公のとった行動や、その時々々の気持ちの流れを押さえさせるために、印象に残った箇所に線を引かせながら読ませる。

③ 考えをまとめて書く工夫をする。

ワークシートを活用し、自分の考えをまとめる時間を設定し書かせる。

IV 本時の展開

(1) ねらい

誰にでもある人間の弱さや醜さを理解し、それを乗り越え克服していこうとする心情を育てる。

(2) 展 開

	主な学習活動	発問・予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入 5分	1 これまでの体験をもとに、自分の考えを想起させる。	○自分に責任があるのに「ぼく(私) じゃないのに。」と言ってしまったことはありませんでしたか。 ・掃除の時間におしゃべりをしていて、先生に注意された時、友達が悪いと言ってしまった。	・事前に学習シートに書かせておく。
展 開	2 資料を読む。 3 ぼく(主人公)の弱さが表れている場面について考える。 4 ぼくの気持ちの変容を考える。	○どうしてぼくは、言おうとしたのに「自分で買った。」と言ってしまったのだろうか。 ・盗んだと言われるのが嫌だったから。 ・疑われるのが嫌だから。 ・健二がはやしたてたから言えなかった。 ・みんなが一斉に自分の方を見たから言えなかった。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">○「ずるいぞ。」という声が聞こえたのは、ぼくの心の中でどんな変化が起きているからだろうか。</div> ・今までの自分の弱さが見え始めてきた。 ・自分の弱さを認め始めた。 ・このままではいけないと思い始めた。 ・自分自身が恥ずかしくなった。	・周囲の状況からとっさに自分を正当化してしまったぼくの行動は、正しいとは言えないがありがちなことである。ぼくの置かれた状況をしっかりと押さえ、主人公の弱さに共感させていきたい。 ・前回「ずるいぞ。」と言われた時のことを振り返り、今回は自分の心の中から出た言葉であることを考えさせたい。 ・学習シートに書かせる時間をとり、その後発表させる。
35分	5 自分の行動を反省し、自分自身に正直に生きようとする主人公について考える。	○卓也の家へと歩き出した主人公はどんなことを考えていたのだろうか。 ・自分のしてきたことを素直に謝ろう。 ・卓也を見習って、正直に生きたい。	・弱さを克服したぼくの気持ちに共感させたい。 ・卓也に謝るという行為は、卓也のためでももちろんあるが、自分自身の生き方として誇り高く生きる行為であることに触れたい。
終末 10分	6 まとめ	○授業を通して学んだことは何でしたか。	・最後に教師から、人間は誰でも弱さを持ち、それを克服しようと努力をしているという内容の話しをする。

(3) 評 価

- ・自分にもぼくと同じ弱い面があることを認めつつぼくの行動を見つめることができたか。
- ・資料を通して、自分の弱さを克服して生きていこうという意欲が持てたか。